

ロバート・W・ブキャナン

7 緑の小鬼

歌曲

リンゴン 鳴らせ歌え 晴れやかな安息日の鐘
ディンドン 響け刻め 谷を抜けて
リンドン 刻め鳴らせ 晴れやかな安息日の鐘
ディンゴン 響け歌え 野山を越えて

私はビュンビュン駈けた ミルクのように白い馬に跨り 5
シルクの下着に海緑の外衣を身に纏って
私の黄金色の髪は足元まで靡き
私の瞳はきらめく雫をたたえた碧い釣鐘草のよう
馬の足音は決して止まることなく
左右に舞い散った秋の葉音と溶け合って 軽やかな音楽を奏でた 10
遙か遠く後方に響く鐘の音は 次第に遠のいていき
だんだんだんだん微かになって やがて聞こえなくなった
銀色の小川のほとり ひっそりとした砂の丘に
緑の小鬼が 頬杖ついて腰かけていた
小鬼は私を見るなり立ち上がると 叫び声をあげて跳びかかり 15
私を白い馬から地面に引きずり降ろしてしまった
ああ なんて深い紅色の髪に緑色の顔
「美しい髪のお嬢さん お前はわしと結婚する運命」と小鬼は叫び
私の細い腰に抱きついて 私の頬に口づけした
一度二度 口づけされて 身動きできず息もできず 20
二度三度 口づけされて でももう一度口づけされたその時に
私は大声で我らの救い主の名を呼んだ

リンゴン 鳴らせ歌え 晴れやかな安息日の鐘
ディンドン 響け刻め 谷を抜け
リンドン 刻め鳴らせ 晴れやかな安息日の鐘 25
ディンゴン 響け歌え 野山を越えて

ああ 微かに微かに聞こえる 男女を祈りに誘う鐘の音

かす かす かなた
微かに微かに聞こえる 遠方に響く鐘の音
救いを求めて 祝福された御名を口にしたその時
真緑色の醜い小鬼は 背が高く凛々しい男に姿を変えた 30
手は白く 鬚髭は金色で 瞳はスローベリーの紫黒色
緋色の上衣とシルクの下衣を身に纏い
頬にはまだ妖精の国のあやしい光を一筋とどめたまま
男は小川のせせらぎのような声でこう語った
「ああ 継母がかけた呪いを貴女が解いてくれた 35
七年ものあいだ妖精の国に囚われていたが 貴女が自由にしてくれた
さあ 貴女の白い馬に乗って教会へ行こう
そしてその輝きに満ちた瞳に誓って結婚しよう」

彼は前に私は後ろに 来た道を決して止まることなく駈けた
赤と黄に色づいた秋の葉は風の中に舞い散り 40
陽の光は輝きを増し 心は誇らしく高鳴った
だんだんだんだん近づくにつれ 美しく盛大に鐘が鳴った
丘を駈け下ると 教会が見えてきた
近くでもっとはっきりと 私たちを迎える鐘の音が鳴り響いた

リンゴン 鳴らせ歌え 晴れやかな安息日の鐘 45
ディンドン 響け刻め 谷を抜けて
リンドン 刻め鳴らせ 晴れやかな安息日の鐘
ディンゴン 響け歌え 野山を越えて

(宮原牧子訳)